

会社概要 (2020年9月30日現在)

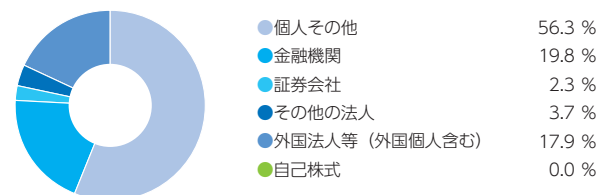
商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産三田ツインビル西館)
設立	1918年11月22日
従業員数(連結)	26,405人
資本金	116,636百万円
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人
上場証券取引所	東京 (証券コード: 5202)
お問い合わせ	https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us

株式情報 (2020年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	177,500,000株
発行可能種類株式総数	普通株式 177,500,000株 A種類株式 40,000株
発行済株式の総数	普通株式 90,782,899株 A種類株式 30,000株
株主数	普通株式 57,761名 A種類株式 3名

所有者別の持株比率(普通株式)



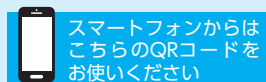
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



ホームページのご案内

当社グループのホームページでは、決算情報や最新プレスリリースなど、様々な情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

<https://www.nsg.co.jp/>



日本語版



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 剰余金の配当 9月30日・3月31日
※必要があるときは公告を行い基準日を設定します。

公告の方法 下記ホームページに掲載する。
<https://www.nsg.co.jp/>

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

株主名簿管理人 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社
 証券代行部
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

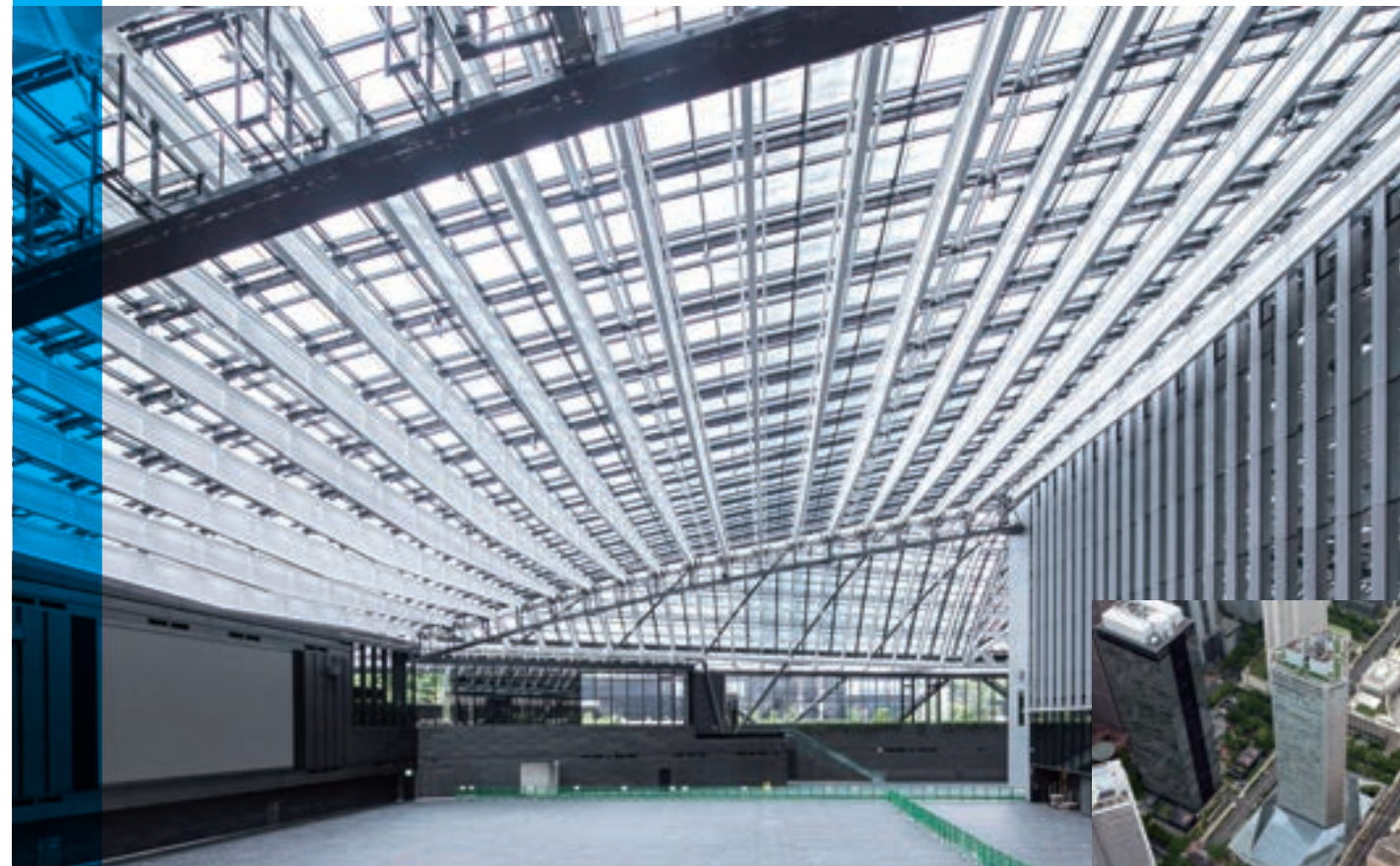
郵便物ご送付先 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社
 証券代行部

電話ご照会先 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)

株主の皆様へ

日本板硝子株式会社 第155期 中間報告書

2020年4月1日 ~ 2020年9月30日



証券コード: 5202

表紙写真: 新宿住友ビル[三角広場]
詳細はトピックスをご覧ください。



ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに当社グループの第155期中間期(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の概況についてご報告申し上げます。

2020年11月

日本板硝子株式会社
代表執行役社長兼CEO

森 重樹

第155期中間期の総括と下半期の見通し

当期上半期の当社グループの事業環境は、4月・5月は世界的な新型コロナウイルス感染拡大による著しい需要減少の影響を受けましたが、6月以降は外出制限の緩和に伴って経済活動が再開され、需要は急速に回復しました。

建築用ガラス市場において一時的に大幅に縮小した建設活動は、各地の外出制限の緩和に伴い改善しました。太陽電池パネル用ガラスの需要は、新型コロナウイルス感染拡大の影響をほぼ受けることなく、引き続き堅調に推移しました。自動車用ガラス市場の需要は感染拡大前のレベルにはいまだ戻っていないものの、自動車メーカーの生産再開に伴い大きく改善しています。高機能ガラス市場も、相対的に影響度は小さいものの前年同期をやや下回るレベルで推移しました。

その結果、当中間期の売上高は2,215億円(前年同期は2,886億円)、営業利益は32億円(前年同期は149億円)、親会社の所有者に帰属する四半期損失は173億円(前年同期は19億円の利益)となりましたが、これは当期第1四半期(4-6月)における需要急減の影響を大きく受けたことによるものです。

一方で、当期第2四半期(7-9月)については需要の回復に加え、グループ全体でのコスト削減活動の効果により、売上高は1,296億円(第1四半期は919億円)、営業利益は38億円(第1四半期は6億円の損失)、親会社の所有者に帰属する四半期損失は9億円(第1四半期は164億円の損失)となり、第1四半期に比べて大幅に改善しました。

当期上半期の当社グループの取り組みとしては、国内では抗ウイルスガラス「ウイルスクリーン®」を使った簡易衝立キットの開発や、同じく抗ウイルスガラスである「サニタイズ(SaniTise)」を北米、南米および欧

州で販売開始するなど、新しい生活様式に対応した新製品の立ち上げに努めました。自動車用ガラス事業においては、欧州でトヨタモーターヨーロッパ社から順引きプロセスによる新しい納入方式の導入・立ち上げに貢献したことにより、達成賞を受賞するなど、顧客から高い評価を受けました。

下半期の事業環境については、感染拡大の完全な終息がみえない中で、経済の先行きには依然として不透明感が残るものの、引き続き改善基調が続くものとみています。

当社グループとしましては、回復する需要に機敏に対応するとともに、引き続きVA製品の拡販やコスト削減活動に取り組み、収益改善を目指してまいります。

今後の見通しと事業方針

今後、当社グループに関連する市場の需要は緩やかな回復が見込まれるものの、以前の水準に戻るまでには時間を要すること、製品のコモディティ化が加速すること、加えて今後の世界の生活様式や需要構造が様変わりしていくことなどが想定され、これらの変化への対応が急務であると認識しています。

こうした状況の下、当社グループとしては、現状の事

業運営のままでは立ち行かないという危機感に基づき、早急な収益力の回復と持続的な事業体制の整備に向けて、聖域なき抜本的な事業構造改革を進めていくこととしました。

本年10月には、社長直属のCTrO(チーフ・トランスフォーメーション・オフィサー)を任命して、今後以下の施策に着手します。

コスト構造改革

2022年3月期に3桁億円のコスト改善効果を創出

- 早期に安定した利益・キャッシュを創出できるコスト構造への変革
- 固定費の大幅削減(2,000人規模の人員削減)
- 生産・購買コストの抜本的改善

成長の加速

今後の需要動向の変化を踏まえた事業ポートフォリオの変革

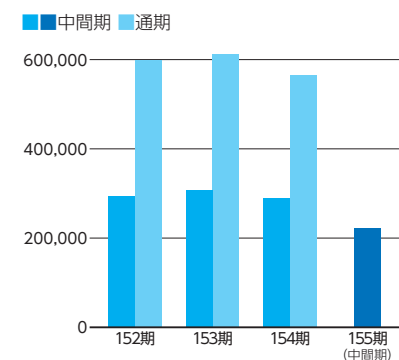
- 太陽電池パネル用ガラスなど成長分野の早期利益貢献、VA(高付加価値)化継続
- クリエイティブ・テクノロジー事業部門の新設による新規事業立ち上げのスピードアップ

組織・業務改革

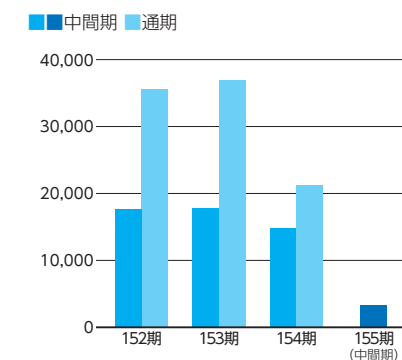
スピード感と緊張感のある経営体質への変革

- 経営体制の見直し・管理階層の削減・権限移譲による意思決定と実行のスピードアップ
- 結果へのコミットとアカウンタビリティの徹底

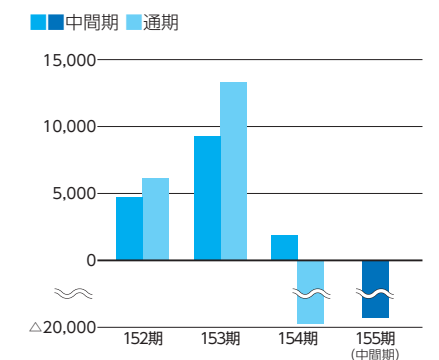
売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益 (単位:百万円)



注: 上記の営業利益については、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

これらの施策によって、来期(2022年3月期)には黒字転換を実現し、早期にサステナブルな事業構造に改革することを目指します。

現在公表を延期している新中期経営計画についても、これらの施策を織り込んだ上で、改めて公表する予定です。

配当について

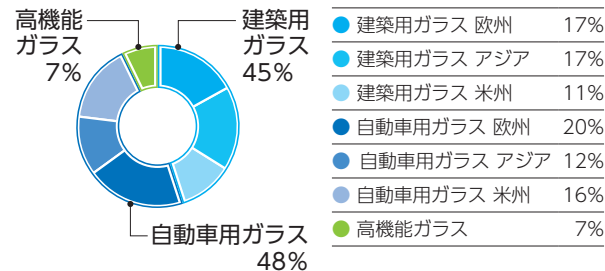
当社グループでは、持続可能な事業の業績をベースにして、安定的に配当を実施することを利益配分の基本方針としております。

当中間期の普通株式配当につきましては、当社グループの業績、財務状況等を総合的に勘案し、誠に遺憾ではあります、その実施を見送らせていただくことといたしました。また、期末配当につきましても同様に見送りとさせていただきます。

株主の皆様には、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。当社グループは、配当が株主の皆様にとって重要なものであることを認識しており、今後、少しでも早く復配できるようグループ一丸となって収益改善に全力を傾けていく所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事業別連結売上高構成比



連結損益計算書(要旨)

	(単位:百万円)	
	第155期 (中間期) (2020年4月1日~ 2020年9月30日)	第154期 (中間期) (2019年4月1日~ 2019年9月30日)
売上高	221,531	288,625
営業利益	3,238	14,876
税引前四半期利益	△15,972	7,196
四半期利益	△17,199	2,404
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	△17,315	1,908
基本的1株当たり四半期利益(円)	△201.86	3.12

注: △は損失

連結貸借対照表(要旨)

	(単位:百万円)	
	第155期 (中間期) (2020年9月30日)	第154期 (2020年3月31日)
非流動資産	544,652	541,108
流動資産	212,923	224,089
資産合計	757,575	765,197
負債合計	693,332	677,003
資本合計	64,243	88,194
負債および資本合計	757,575	765,197

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	(単位:百万円)	
	第155期 (中間期) (2020年4月1日~ 2020年9月30日)	第154期 (中間期) (2019年4月1日~ 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,766	1,377
投資活動によるキャッシュ・フロー	△26,438	△30,179
(フリー・キャッシュ・フロー)	△34,204	△28,802
財務活動によるキャッシュ・フロー	30,949	23,364
現金および現金同等物の 四半期末残高	37,484	42,979

注: △はマイナス

注1: 当社は、第146期より国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。

注2: 上記の営業利益については、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

特集

NSGグループの技術・製品紹介

Withコロナ時代の安全・健康に貢献する抗菌・抗ウイルス技術

■ 抗菌・抗ウイルスガラスのグローバル展開

NSGグループでは、以前から菌・ウイルス・カビなどから人々の健康を守る高機能ガラスの開発に力を注いできました。

一般的にモノに付着した細菌やウイルスは12時間~24時間生存すると言われています。当社が開発した抗菌・抗ウイルスガラス「ウイルスクリーン®」は、銅系化合物と酸化チタン光触媒の相乗効果により、光の力でガラス面に付着したウイルスをおよそ60分で99%以上減少(自社試験結果)させ、ウイルスの活動を抑えます。この製品は蛍光灯やLED照明などの可視光にも反応する「可視光応答型」で、紫外線のあたらない室内でも高い抗菌・抗ウイルス効果を発揮します。

ウイルスクリーン®を日本で先行販売する一方、北米、南米、欧州地域では、本年10月、自然光(紫外線)で大きな効果を発揮する抗菌・抗ウイルスガラス「サニタイズ」の販売を開始しました。サニタイズは、2次加工が容易で、学校、病院、レストラン、ホテルなどの建物や公共施設、バスや電車などの公共交通機関など様々な分野での採用が期待されています。

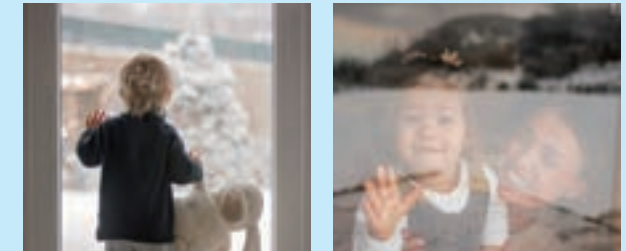
	ウイルスクリーン®	サニタイズ
抗ウイルス効果	紫外線、可視光、暗所で発揮	自然の紫外線で発揮
使用場所	主に屋内で使用可能	自然光のあたる場所
2次加工	仕様により加工できない場合あり	一般的なガラスの加工が可能

■ モバイルPCR装置「PicoGene®(ピコジーン)」の展開

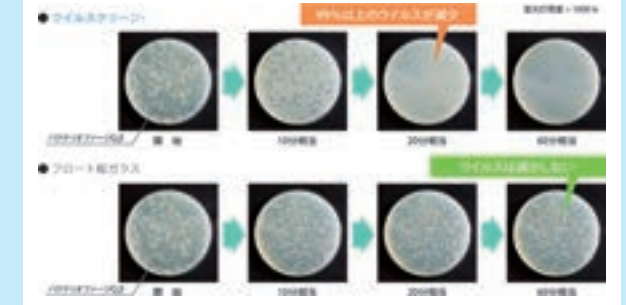
PicoGene®(ピコジーン)は、当社の独自技術セルフロックマイクロレンズを応用した、迅速・高精度・コンパクトなPCR装置です。軽量(約560g)、迅速(測定時間 約10分*)、高精度(大型PCR装置と同等)、省電力などのユニークな機能を持ち、2019年春の本格発売開始以降、研究機関などから高い評価をいただいています。現場での迅速なウイルスや菌の測定が可能なことから、現在、新型コロナウイルス測定に関するご相談やお問合せを国内外から多数いただいております。複数の国で医療認可を取得できるパートナー企業と連携し、認可取得に向けた作業を行っている段階です。



* 検査対象、検査環境により異なる場合があります。



実験によるウイルス抑制効果



■ より安全で健康な社会実現を目指して

今年、当社グループ研究開発部門(英国)の抗ウイルスガラス開発プロジェクトが、英国政府のイノベーション産業助成機関「イノバートUK」から助成金を獲得しました。これは、同機関主催の「新型コロナウイルス感染症緊急対応イノベーション基金」に応募していたもので、当社グループは、世の中のご期待に



一日も早く応えることができるよう、新型コロナウイルスを低減させる新たな抗ウイルスガラス製品の開発を加速させています。

1 水素エネルギーによるガラス製造、世界初の実証実験開始

当社は、2020年2月、水素エネルギーを利用したガラス製造の実証実験を行うことを発表しました。これは、世界初の試みであり、英国北部にあるグリーンゲート工場で2020年11月より開始します。

この実験はガラス溶解窯の主燃料である天然ガスや重油の代替エネルギーとして水素を利用するもので、転換可能な水素の比率を調査します。仮に天然ガスをすべて水素に転換できれば、二酸化炭素(CO₂)を80%削減することが可能です。

この実験は、CO₂削減に取り組む共同事業体HyNet*のプロジェクトの一環として、英国政府が推進する工業燃料転換計画から520万ポンド(約7.5億円)の資金補助を受け実施します。

* HyNet: イングランド北西部における産業、一般家庭および交通機関から排出されるCO₂削減に取り組む共同事業体。



2 マシンビジョン向け SELFOC® Lens Array[SLA 5DG]販売開始

主にプリンタ複合機(マルチファンクションプリンター)の読み取り部分であるコンタクトイメージセンサー(CIS)*1に使用されているSELFOC® Lens Array(SLA)の新製品[SLA 5DG]を開発し、販売を開始いたしました。[SLA 5DG]は焦点深度*2を従来の2倍に向上させ、自動光学検査機などのマシンビジョン*3向けに用途を拡大した製品です。



SLA写真とマシンビジョンイメージ

*1 CIS: Contact Image Sensor。レンズアレイ・光源・センサーが一体となったラインスキャンユニット。

*2 焦点深度: レンズを通して対象物を見たとき鮮明な像が得られる光軸方向の範囲。

*3 マシンビジョン: 画像の取り込みと処理に基づいて機器を動作させる仕組み。例、自動検査機など。

3 ゼネラルモーターズの北米で2021年発売予定の全SUV車に、当社製高精度フロントガラスが採用

当社製ヘッド・アップ・ディスプレイ(HUD)対応フロントガラス(直接情報を映し出すことができるフロントガラス)が、ゼネラルモーターズが2021年に北米で発売を予定するすべての新型フルサイズSUV車に採用されました。

今回採用された最新の15インチマルチカラーHUDは、米国で人気の高い各SUV車におけるドライバーの安全性向上に貢献します。

当社独自の高精度プレス技術*は、HUDに必要な複雑な形状で面精度(ガラスが設計通りに成形される精度)の高いフロントガラスの製造に強みを発揮します。HUD等の運転支援システムの技術革新により、高性能の自動車用ガラスの需要は世界的に拡大を続けています。

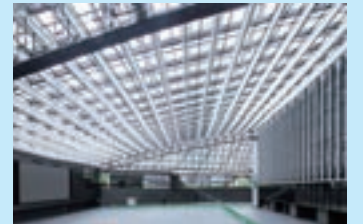
* 高精度プレス工法は、高温に熱したガラスを1枚ずつ型にあわせてプレス成形する曲げ加工方法です。ガラス自体の重力によって自然成形を行う自重工法に比べ、難しい成形や、高い面精度が求められる場合に適しています。



2021 GMC Yukon and Yukon XL 写真提供: ゼネラルモーターズ

4 新宿住友ビルに“国内最大級の全天候型イベント空間”「三角広場」誕生(表紙写真説明)

2020年7月、新宿住友ビル(東京都新宿区)に「三角広場」がオープンしました。同ビルは、約3年の歳月をかけて全面リニューアル工事が行われ、52階建ての足元にはガラスの大屋根がかけられた国内最大級の全天候型イベント空間「三角広場」(約3,250平方メートル)が新設されました。この三角広場は、平時は大規模イベント会場として使用され、災害時には帰宅困難者の一時滞在施設(最大収容人数2,850名)となります。最大天井高約25mの巨大アトリウムの大屋根には、快適性と安全性も考慮し、当社製合わせガラスを使用したLow-E複層ガラスが採用され、その高い遮熱性と断熱性によって四季を通して快適な空間になるよう設計されています。



役員 (2020年10月1日現在) 当社は、指名委員会等設置会社制度を採用しています。

取締役

社外取締役	木本泰行	指名委員長	監査委員	報酬委員
社外取締役	山崎敏邦	指名委員	監査委員長	報酬委員
社外取締役	ヨーク・ラウパッハ・スミヤ	指名委員	監査委員	報酬委員長
社外取締役	石野博	指名委員	監査委員	報酬委員
社外取締役	皆川邦仁	指名委員	監査委員	報酬委員
社外取締役	黒井義博			
取締役	森重樹	指名委員		報酬委員
取締役	クレメンス・ミラー			
取締役	諸岡賢一			

執行役

代表執行役社長兼CEO	森重樹	執行役常務	ヨヘン・セトルマイヤー
代表執行役副社長兼COO	クレメンス・ミラー	執行役常務	フィル・ウィルキンソン
代表執行役副社長兼CAO兼CRO	諸岡賢一	執行役	ティム・ボラス
執行役常務	トニー・フラッジリー	執行役	マイク・グリーンナル
執行役常務	日吉孝一	執行役	小林史朗
執行役常務	石野聡	執行役	ジョン・マーサー
執行役常務	楠瀬玲子	執行役	中島豊
執行役常務	西川宏	執行役	イアン・スミス
執行役常務	ロブ・パーセル	執行役	ミレナ・スタニッチ

注: クレメンス・ミラーは取締役、代表執行役副社長兼COOを、ヨヘン・セトルマイヤーは執行役常務をそれぞれ2020年12月31日付で退任、細沼宗浩が執行役常務に2021年1月1日付で就任の予定です。